

xi

感動価値創造 magazine Xi [sài]

2025

01



UNFOLD
YOUR
POTENTIAL

印刷業界の次の担い手、 drupa2024で発表された省人化、 自動化技術

印刷業界の労働者不足は日本だけにとどまらず、ドイツでも深刻な問題になっています。ベビーブーム世代が現場から引退することで、高齢化による労働人口の減少がドイツの印刷業界の労働環境を厳しいものにしていきます。数年前よりドイツでは各業種製造業の専門技能者の育成が将来的に難しくなると考え、生き残りをかけてさらなる省人化、自動化技術の検討を急いでいます。

drupa2024ハイデルベルグブースでは省人化、自動化技術を発表しました。自動化には印刷工程エンドツーエンドの生産性や流れを考慮した技術革新が必要になります。中でも特に印刷の後工程は人手のかかる作業が多く、労働負荷が高い作業が多く存在しており、ロボット技術の導入による効果を期待する動きがあります。ロボットは深刻な人手不足解消、労働力の確保、品質の安定性と生産性向上が可能な手段として注目されています。そこでポーラー社の断裁システムでは、労働負荷の高い断裁作業の完全自動化を実現した、グリップパーアーム技術採用のシステム断裁機ポーラーPACEを市場に投入しています。これにより経験の少ない作業員が高い生産性を誇る断裁機を操作することが可能になります。

ロボット技術が多く採用されるようになった背景には、1980年代に登場した産業用ロボットの技術革新が大きく影響しています。自動車業界に普及し、今では無人工場でロボットが自動車を組み立てるまでになっています。産業用ロボットは安全柵が必要になるため、重量物の運搬や処理速度が必要な作業に多く使われることから、2013年の労働安全衛生規則改定を背景に、人と協力してはたらく「人協働ロボット」が登場しました。これにより今、製造現場は大きく変わろうとしています。

drupa2024ハイデルベルグブースでは毎時21,000回転の印刷機の生産性に対応する、人協働ロボットを接続したスタール折機TH82Pをご紹介します。パレタイジング作業を人が介入せずに自動で行うことを実現しています。このソリューションは人協働ロボットが高速生産の作業を補助し、労働負荷の高い作業の代わりとなるものです。



協働ロボットスタッキングシステム スタックスター C

また、パッケージングコーナーではフォルダーグルアーによる毎分500mを超える生産スピードを実現するために、グルアーへの給紙用産業ロボット、箱詰め補助としての人協働ロボット、パレタイジング用産業ロボットが生産をサポートします。近年、日本においてもこのロボット技術は注目されており、実際にロボットを希望する作業内容や製品の形状、動きなどを基にハンド(製品を掴む手)やソフトウェアをカスタマイズすることがすでに可能となっています。

ロボットは手軽なコスト削減策というよりも、長期的な戦略としての投資として考える必要があるでしょう。ただ、現実の作業は人間ほど柔軟で適応性のある存在は他にはありません、人への投資は製造業のパフォーマンスを最大化するために、継続的に行われなければならない重要項目です。



ポーラー自動断裁システム PACE

ハイデルベルグ・ジャパン株式会社

〒140-8541 東京都品川区東品川3-31-8 TEL(03)5715-7377
www.heidelberg.com/jp

HEIDELBERG



LITHRONE GX/G

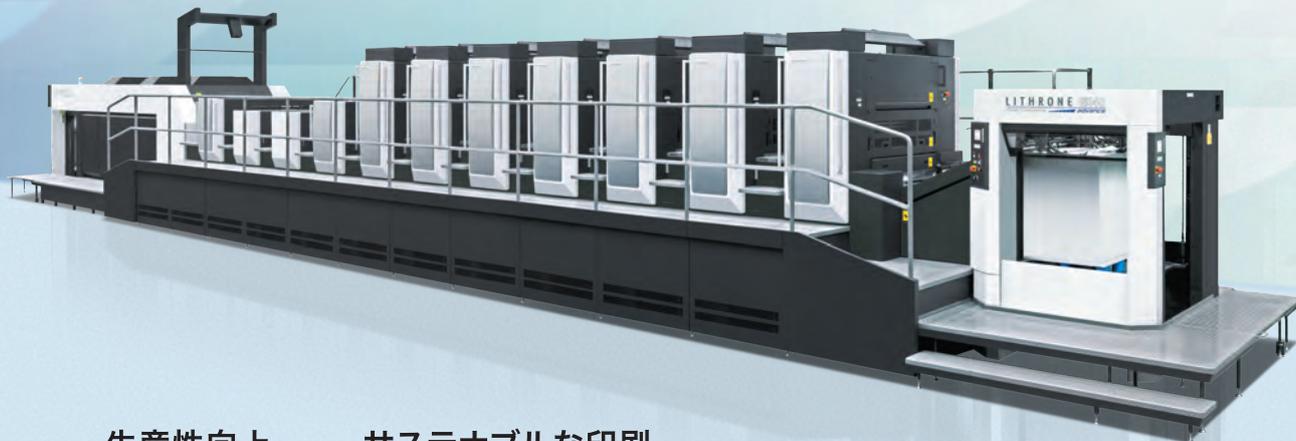
advance

EX Edition

リスロンGX/Gアドバンス EXエディション 生産性とサステナビリティの新基準

世界最高クラスのROI*¹を誇り、全世界での導入が進むオフセット枚葉印刷機、リスロンGX/Gアドバンスシリーズ。KOMORIはさらなる生産性向上とサステナブルな経営を実現するため、革新的な新機能を搭載した新しいリスロンGX/Gアドバンスシリーズを開発しました。最新のプリントテクノロジーを駆使し、エネルギーコストの抑制と印刷オペレーターの作業効率向上を実現するリスロンGX/Gアドバンスシリーズは、ビジネスを新たな次元へと引き上げます。

*¹ 投資収益率 (Return on Investment)



生産性向上



サステナブルな印刷



Photo: GLX-740A
※写真のモデルはオプション仕様を含んでいます。

KOMORI

株式会社 小森コーポレーション
〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋3-11-1 Tel. 03-5608-7806(代表)

おクルマのご購入をお考えの皆様へ!

お車購入の際は
事前にご一報ください。

東京海ジョー



- 全メーカー・全系列対応します!
- 商談後にお断りになることも自由です!
- 日頃付き合いのあるディーラーでもOK!
- 新車・中古車どちらもご相談ください!



自動車販売店とご商談を開始する前にご相談ください。



東京海上日動 車両情報センター フリーダイヤル ☎ 0120-086-590

※営業時間 9:00 ~ 17:00 土日祝日休業 ※全印工連の組合員である旨お申し出ください! 併せてご連絡先、購入希望の車種などお伝え下さい。

あなたのための、DXでありたい。

DXという言葉がなかった時代から、
デジタルでビジネスの仕組みを変えてきた大塚商会。
テレワークやAIの活用、紙文書の電子化など、
新しい働き方を時代に先駆けて自ら取り入れ、
体感し、お客様に提案してきました。
あなたのビジネスの現場で、
ほんとうに役に立つ生きたソリューションを。
それが、大塚商会のめざすDXです。



あなたのビジネスに、大塚商会の提案力と対応力を。
<https://www.otsuka-shokai.co.jp/dx/>



大塚商会

株式会社大塚商会 東京本社:〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡

CONTENTS

瀬田会長	新年のご挨拶	6
日印産連会長	年頭所感	7
対談	ミッションは“デジタル体験で世界を変える”生成 AI でクリエイティブを進化	8
紙って面白い!	ペーパーサミット	14
委員会紹介	DX 推進委員会	18
共創パートナー企業	ソリューション提案 ホリゾンの Smart Factory	19
工組紹介	東京都印刷工業組合	20
全青協	全国協議会、大阪万博、そして伝説へ	21
労務	雇用保険制度 現在の制度と今後の主な見直し内容について(3)	22
	令和6年秋の叙勲・褒章受章者紹介	23
	全国の印刷関連イベントのお知らせ	23
	「令和6年度印刷業経営動向実態調査」実施のお知らせ	23
	新春のご挨拶	24



[本号の表紙]

「江戸切子」は、日本の伝統工芸品の一つで、ガラス表面に金盤や砥石を用いて精緻な模様を刻む技法「切子」によって作られるガラス工芸品です。その起源は江戸時代後期、江戸・大伝馬町のビードロ職人、加賀屋久兵衛が始めたとされています。当時は透明なガラスに幾何学模様が施されていましたが、明治以降、透明度の高いクリスタルガラスが導入され、繊細で華やかな仕上がりが特徴となりました。切子技法で生まれる文様は光を受けて美しく輝き、和洋を問わず多くの場面で親しまれています。特に東京では、墨田区や江東区を中心に多くの工房が活動を続け、伝統技術を守りつつ、現代のライフスタイルに合わせた新しいデザインや製品の開発にも力を入れています。

江戸切子はその卓越した職人技と美しさで、日本文化を象徴する工芸品の一つとして高く評価されています。

NO.729

令和7年1月10日発行（毎月1回10日発行）昭和44年4月26日第三種郵便物認可 発行人 / 瀬田章弘 編集人 / 高橋秀明 発行所 / 全日本印刷工業組合連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 TEL.03-3552-4571 (代) FAX.03-3552-7727

<https://www.aj-pia.or.jp>

本誌では、本文に(株)モリサワのユニバーサルデザインフォントを使用しています。



新年の ご挨拶

全日本印刷工業組合連合会

会長 瀬田章弘

明けましておめでとうございます。

旧年中は、当連合会に格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、本年も一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

昨年5月に会長を拝命し、以来新執行部一丸となって業界の課題解決、未来に向けた組合員各社の発展のための事業を推進して参りました。また、昨年9月に大阪市にて開催いたしました「2024全印工連フォーラム IN 大阪」には、全国から400名を超える方々にお集まりいただき、全印工連事業をより一層ご理解いただくとともに全印工連の団結と協調を強めると共に、印刷をコアにした地域の課題解決業への展開を価値協創で拓く未来として冊子の配布、前田元中小企業庁長官の講演、フォーラムメッセージを通じて業界の将来像に対する新たな指針を発表し業界の方向性を再認識して頂くことが出来ました。これも偏に全国の印刷工業組合の役員、組合員、関連業界の皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症による社会経済活動への様々な制限は緩和されましたが、国際情勢不安や円安によるエネルギー価格、原材料価格の高騰、人手不足、賃上げや取引の適正化に向けた価格転嫁対応等、依然として多くの経営課題が山積みし、中小印刷業界は、厳しい経営環境への対応がもとめられる年となりました。

このような状況の中、全印工連では、『Happy Industry』～人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業～という理念の下、同質化からの脱却、供給過剰の解消に向け「価格競争」から互いを伸ばし合い活かし合う価値協創のエコシステム作りを目指し、CSR 経営の推進、差別化による収益性の向上、経営基盤の強化、組合の強靱化に取り組んでまいりました。

全印工連は、創立70周年に当たる記念すべき年を迎える本年も引き続き、「価値協創」へと繋がる各種事業に積極的に取り組んで参ります。特に文化や教育、経済活動における紙メディアのサステナブルな価値や情報媒体としての効果の研究と訴求をして参りたいと考えております。

また、地域の課題を解決するローカルゼブラへの取り組みについて力を注いで行く所存でおります。併せて、全日本印刷産業政治連盟や中小印刷産業振興議員連盟との連携による印刷業界のさらなる地位向上、取引の適正化、官公需取引改善など組合員各位とともに印刷産業の持続可能な発展に向け一層精進してまいります。

本年が皆様にとって明るい希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。



2025年 年頭所感

一般社団法人 日本印刷産業連合会

会長 磨 秀晴

令和7年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、日本印刷産業連合会（日印産連）の運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の印刷産業は、長引く円安と地政学リスクの影響によるエネルギー、原材料価格の高騰や構造的な人手不足、デジタル化による印刷需要の縮小など、引き続き厳しい経営環境が続きました。そのため、「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」を改訂し、労務費の適切な価格転嫁の促進やパートナーシップ構築宣言の拡大など、サプライチェーンにおける取引改善に努めました。

また、人手不足への対策として、特定技能制度の対象分野の追加が3月に閣議決定され、「印刷・製本」業務区分が追加認定されましたことは、人材獲得に苦慮されている多くの事業者にとって朗報となりました。

本年は日印産連設立 40 周年という節目の年であります。設立当時(1980 年代)の印刷産業は、製品出荷額が 10 年間で 2 倍に拡大するほどの成長産業であり、印刷関連業界には業種や地域ごとに組織形態や事業規模も様々な団体が存在していました。そのような中、来るべき高度情報化社会の一翼を担う産業として、社会や行政に対する発信力の強化と印刷産業のさらなる発展と地位向上を目的に、大手印刷企業と中小企業団体が大同団結し、印刷産業全体を包括する社団法人として、1985 年 6 月に設立されました。

その後のバブル崩壊やインターネットによる情報革命を経て、印刷の製品出荷額はこの 30 年間で約半分に減少しましたが、その間、印刷各社は印刷技術を核に新たな情報技術を融合して事業領域を拡大してきました。今後さらに、社会全体の DX や AI 活用が加速し、生活やビジネスが大きく変化するなかにおいても、印刷産業が社会に求められ続ける産業であるためには、「高付加価値コミュニケーションサービス産業」としてのあるべき姿を見据え、長期的な視点に立って会員 10 団体が力を合わせ、新たな価値創出、事業領域の拡大に向けた連携・共創を推進することが大切です。

4 月には、いよいよ大阪・関西万博が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開幕し、SDGs 達成を見据えた新たな社会を世界に向けて発信します。関連するビジネスはもちろんのこと、多くの外国人観光客を迎えインバウンド需要も期待できます。自治体や様々な業種の企業と連携し、新たなビジネスを生み出す年にしていきましょう。

日印産連は本年も、印刷産業の価値向上と持続可能な社会の実現に向けて、関係省庁、会員 10 団体、賛助会員、関係業界団体の皆様と連携し共に活動を進めてまいります。皆様にはこれまで以上のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、さらなるご発展とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。



インタビュー

アドビ株式会社 代表取締役社長 中井陽子氏

聞き手：経営革新マーケティング委員会委員長 木村崇義(株式会社ソウブン・ドットコム 代表取締役社長)

ミッションは “デジタル体験で世界を変える” 生成 AI でクリエイティブを進化

印刷・グラフィック業界の技術革新を牽引してきたアドビ株式会社。『Adobe Creative Cloud』に代表されるグラフィック系のソリューションに加え、現在、生成 AI やマーケティングに関するソリューションにも力を入れている。全印工連にアドビ特別ライセンスプログラムを提供するパートナーでもある同社が今、印刷産業をどう見ているのか、また、今後、どのようなソリューションを打ち出していこうとしているのか、アドビ株式会社代表取締役社長の中井陽子氏に話を伺った。(聞き手：木村崇義氏／本文中敬称略)

インターネットから 見えた未来の景色

木村 本日は全印工連のアドビ特別ライセンスプログラムを提供頂いているアドビ株式会社の中井社長にお話を伺います。

中井社長は昨年4月にアドビの代表取締役社長に就任されましたね。これまでのご経歴を教えてください。また、アドビでの役割はどのように認識されていますか。

中井 アドビに入る前はマイクロソフトで27年間勤務していました。入社した当時はソフトウェアが箱売りで、

Windows95のような象徴的なイノベーションが市場に出始めたころです。日本の市場では製品マーケティングやエンタープライズ営業、戦略立案など、様々な業務に関わってきました。2000年代半ばぐらいから国内でもクラウドシフトが始まったわけですが、IT 革新の大きな流れの中で、市場の拡大にも携わりました。最後の6年間は公共部門で中央省庁を含めた行政、自治体、教育機関など、国全体のデジタル化を後押しする役割を担いました。

アドビ株式会社での役割は、『Adobe Creative Cloud』に代表されるデジタルメディア関連の事業と、マーケティングを最適化するプラットフォーム関連の事業の二つを、日本でしっかりと推進していくことです。アドビは国内で

長くビジネスを続けていますが、一人でも多くのお客様にアドビの新しいテクノロジーを提供していくことが私の役割と認識しています。

木村 前職でソフトウェアの分野に入られたということですが、当時、どういったところに興味を持たれたのですか？

中井 私が学生だった1990年代はまだデジタル技術がそれほど広がっていない時期でした。まだ通話が固定電話中心でしたし、やっと携帯電話が一般的に使われ始めて、同時にインターネットが世の中に知られていった頃です。そうした中で、1990年代半ばに放送されたNHKスペシャルの『新・電子立国』というドキュメンタリーを見た時に、番組で訴えていた「インターネットが将来的に世界を大きく変えて行くだろう」というメッセージに惹かれたのです。

私が通っていた大学でもコンピューター教室ができて、そこで初めてインターネットを体感し、その場所で世界中の情報に触れました。子供の頃、情報は書籍などの限られたところにしかありませんでしたから、世界とつながるインターネットはテクノロジーに大きな革新をもたらすのだろうと感じました。

同時にそれまでコマンド画面で操作していたパソコンが、Windows95の登場によりグラフィックユーザーインターフェース(GUI)で動くようになり、コンピューターが急速に一般化されていくのを見ると、素人ながらも、きっと大きく世界が変わると思いました。それで、Windows95を作っている会社に応募したというわけです。

木村 当時からそうした技術革新や世の中の変化にアンテナを張られていたのですね。中井社長が転職されたアドビはグラフィック業界にDTPという革新的なイノベーションをもたらしました。現在のアドビのビジョン、ミッション、事業戦略についてお話し頂けますか。

中井 パソコンにおけるGUIと同じぐらいに大きいAI(人工知能)という技術が出始めて、働く方の仕事のスタイル、個人の方のものを作るスタイル、協業するスタイルなどあらゆる領域で変化の過渡期にあると考えています。

アドビは“デジタル体験で世界を変える”というミッションを掲げています。多くの方々に、購買や消費に関わる素晴らしい体験を提供するために、個人の嗜好に合ったコンテンツを世に出していくことが、アドビが目指しているところです。クリエイティブとデジタルマーケティングを一つにしたプラットフォームを通して、今までの何万倍もの

コンテンツを短期間に生成するという革新と、同時にマーケティングの世界に大きな変化をもたらすことができると考えています。クリエイションだけでなく、個人の体験につながる流れを作っていく。アドビは法人、個人を問わずにそれを提供できる技術があります。

木村 昨年、デジタル活用能力育成推進プログラム『Adobe Education Elite Program』をスタートしました。アドビの教育市場に対するアプローチと、教育現場で様々なデジタルソリューションを提供する背景を教えてください。また、一般企業のDX支援にも乗り出しています。具体的にどのようなソリューションを提供していますか。

中井 日本の教育市場もかなりそのデジタル化が進んできています。欧米諸国で比較的早くデジタル化が始まり、アジア・パシフィックではオーストラリアのパブリックスクールに1人にPC1台は当たり前になってきて、さらに学習度合を可視化していく取り組みが行われています。日本もそこに追いつこうと、政府は2020年にギガスクール構想に着手しました。今、4年目を迎えていて、急速に公教育の場に1人にPC1台の環境が整いました。ここまで一気に進めた国はあまりないぐらいです。



その目的はパーソナライズされた学習環境を提供していくことと、一人ひとりの子供たちが生き抜く力を付けること。生き抜く力とは、何かを正確にやるというよりも、あらゆるツールを使って世界の人たちとつながりながら新しい価値を作る力だと思うのです。自分で考え、作って、意見をもらって作り直して、仲間を増やしていく。デジタル教育の背景にあるのはそうした方針です。

現在、生成 AI を含めてデジタルライゼーションにより人々ができることがかなり増えてきました。アドビが大事にしている言葉に“Creativity for All”があります。ほぼ全ての人々がスマートフォンやパソコン、タブレット PC を持つ中で、あらゆる方々がクリエイティブツールに接することができるようになってきました。一般のオフィスワーカー、プランナー、マーケターなどの方々が創造性を活かせる『Adobe Express』（生成 AI も活用できるコンテンツ制作アプリ）は“Creativity for All”を実現していくもので、デザインやショートビデオを直感的に作る事ができ、かつあらゆる業務に使うことができます。ビジネスの領域はもちろん、教育現場の中で子供たちにも使ってもらいたいということで、小中高の児童・生徒に『Adobe Express』の無償提供を行っています。

徐々に教育現場で『Adobe Express』の活用が広がってきていて、その背景にギガスクール構想によりプラットフォームが整ってきたことがあります。アドビは子供たちがもともと持っている想像力を発揮しやすい環境を提供していきたいと考えています。また、大学や専門学校には Creative Cloud を高等教育期間向けライセンスとして特別価格で提供しています。学生の方たちが自分を表現し、仲間とコラボレーションできるツールを使える力を養っておけば、社会に出たときに役に立つと思います。

一般企業の DX については、あらゆるオフィスワーカーの方々のクリエイション領域で支援をしたいと考えています。例えば、マーケターの方々が Adobe Express や Adobe Firefly を使って素早く魅力的なコンテンツを作り、それを Adobe Target などのアドビのデジタルマーケティングツールを使って顧客層ごとに出し分けていく、といった活用例をご提案していきたいです。しかも、圧倒的に短い時間で、ガバナンスを効かせた上でコンテンツを共有していく“コンテンツサプライマネジメント”がアドビの製品でできてしまうんですね。

木村 様々なツールやソリューションが登場することで、クリエイションに関してプロフェッショナルとアマチュアの垣根がなくなり、印刷業界の多くが、どうやって差別化していくか気にしているところなんです。個人、クリエイターが目指す方向性として何かお考えはありますか。

中井 今回の Adobe MAX で一貫してテーマに挙げていたのは、生成 AI を通してクリエイターの方がもっと素晴らしいお仕事ができるようにすることが私たちの使命であるというメッセージでした。クライアントが業務を託

せるような本当に質の高いクリエイションにフォーカスするとか、対象者の感性に合ったコンテンツを選び出して最終成果物を届けるとか、アドビとしてプロにしかできない領域を高めるご支援をしたいということです。

一般の方に対しては TikTok や Instagram のようにデジタル化されたコミュニケーション手段を通して、自分の思いを知ってもらうためのコンテンツ生成という部分で、新たな体験を提供していこうとしています。したがって、プロの方が生成 AI を活用してもっと素晴らしい仕事をしていくとすれば、その差は縮まることはありません。創作活動を通じて個人のコミュニケーターから、プロになりたいという方が増えていく可能性もあります。

木村 なるほど。個人の方がクリエイティブの世界で、プロとして能力を発揮してもらおう一つのステップになるかもしれませんね。

もう一つ、中井社長はキーワードとして“個人のデジタル体験”を挙げられました。すでに個人の体験に焦点を当てたマーケティングが始まっていますが、それが一般化するのはいつ頃と感じていますか。



中井 すでに多くの企業が、個人個人に最適化された最高のデジタル体験を提供し始めています。例えば、私も良く利用しているデルタ航空さんは、スマートフォンのチケットから、利用者個人のチェックインの時間やフライトの情報、預け荷物の状況などが分かるようになっています。

単に飛行機に乗るだけの体験だけでなく、様々な情報をプッシュして違う体験ができるような仕組みです。

米国野球組織の MLB では、若年層のファンを増やしたいという目標を掲げていましたが、アドビのツールを活用し、座席まで最も早くたどり着ける入口やルートの提示、VIP 駐車場のプロモーション、フードやドリンクのクーポンなど、パーソナライズされた情報を提供することで、成果を上げています。さらには、もっと球場に足を運んでもらうために選手の出場情報などを提供することで、観客も満足しますし、つながり続けることができます。これが、アドビが目指しているデジタル体験です。

こうした取り組みは日本でも始まりつつあり、私がお話するお客様も、まさにこれを目指したいとデジタル体験に踏み切ろうとしています。データとデータを連携させる部分などテクニカルな課題を超えれば可能な段階にきています。お客様に最適な体験を提供して長く商品を受用してもらったり、買いたいと思うタイミングでプロモーションしたりすることは、もうすぐできるようになります。すでにパイロット運用しているお客様もいますので、間もなく日本でもデジタル体験の事例が増えてくると思います。

木村 日本でそうしたマーケットが広がるとなれば、私たちも無関係ではありません。一緒にマーケットを育てる関係になりたいですね。

中井 全印工連様には多くの日本の印刷会社が所属されています。デジタルと印刷を融合したデジタル体験など、ぜひ皆様と一緒に日本に根付いたエコシステムを作っていきたいと思います。

商用利用にも最適なアドビの画像生成 AI

木村 現在の印刷業界が抱えている課題をどう見えていますか。その課題に対してアドビはどのようなソリューションを提供しようとしていますか。

中井 印刷業界の課題はデジタル化の推進、環境への配慮、持続可能性のビジネス、生産性・効率の向上、付加価値向上のためのパーソナライズ対応などと理解しています。そうした課題に対して、私たちのテクノロジーでご支援できる部分が大いにあると考えています。

全印工連様と連携して取り組んでいるアドビ特別ライセンスプログラムの中でご提供しているセミナーや勉強



会をご活用頂き、最新のテクノロジーとその活用方法について知見を得て頂ければと思います。

『Adobe Creative Cloud』だけではなく、マーケティング関連のコンテンツも用意しておりますので、ぜひ、1社でも多くの方々にご活用して頂き、課題の解決へ少しでもお役に立てればと思います。

木村 お話をお聞きしながら、クリエイティブの領域だけでなく、AI を活用した作業の効率化、コスト削減、パーソナライズという課題に対して、アドビの製品、サービスで改善できると感じました。とくに現在、AI に力を入れられているようですが、生成 AI はグラフィックコンテンツの制作を自動化し、限りなくコストをゼロにする可能性を持っています。グラフィック業界にも、アドビにとっても一つの脅威になるという見方がありますが、どのような影響をもたらすと見えていますか。

中井 アドビは生成 AI がクリエイターの方々のお仕事を奪うと思っていません。AI の機械学習は、美しいとか、整っているとかが、心に訴えかけるとか、人間の感性が必要な部分に関して限界を持っています。逆に自動化できることを AI に任せて、クリエイターの方々には創造性のところに一層、力を注いでいけると考えています。

生成 AI については世の中でもフェイクニュースに代表される問題が懸念されています。アドビは数年前から業界を巻き込んでコンテンツ認証イニシアティブという取り組みを進めています。アドビ1社ではなく、現在、世界各国から約 3,700 社が参画しており、誰がそのコンテンツをどのように作ったのかの来歴情報を付与し、フェイク情報の拡散防止に役立てようとしています。

AI が生成したコンテンツの商用利用にあたっては、著作権の侵害がもっとも懸念されるポイントとなります。『Adobe Firefly』の場合は、『Adobe Stock』という数億点の著作権フリーのコンテンツライブラリー及び著作権が放棄されたコンテンツを学習データとしているため、生成される画像は安心して商業利用できます。

それに対して一般に市販されている AI は、インターネット上の全てのコンテンツをまんべんなく学習しているので、誰かが権利を持っている作品をベースに生成してしまうリスクがあります。

長期的に見て、一番のリスクはフェイクニュースのようなところに著作物が使われてしまうことだと思うんですね。グラフィック業界をリードしてきたアドビとしては、著作権保護の先頭を切ることで、競合との差別化にもつながると考えています。プロダクトとして質の高い製品を提供し続けることと、著作権保護への取り組み、安心して AI が生成した作品を使えることがアドビと他社との違いです。

木村 無料ソフトで作れるよね、と言って来歴が定かでないコンテンツを扱っているとかなり高いリスクを負いかねないということですね。全印工連がアドビとしっかりと組んでいくというのは、コンプライアンス的にも合致しており、大いに意義があると感じます。

中井 コンテンツ認証イニシアティブのサイトでは、画像などの来歴情報を確認することができます。作成した人、年月日、ツール、補正の情報や画像に別の画像を組み込んで作られたものだ、ということもわかります。

木村 こうしたムーブメントがあるということ、我々業界団体側も把握する必要があります。コンテンツの認証が進んでいくことは、私たち1社1社が認識していかなければなりません。もっとこうした部分で連携していくべきだと思います。印刷業界・印刷会社とのこうしたパートナーシップの強化や、また、全印工連とのパートナーシップはアドビにとってどう位置付けられているのでしょうか。

中井 全印工連様は日本の印刷会社を代表する団体です。私どもがこうしたお話をさせて頂くことで、皆様の新しい価値提供を創るきっかけになるのではないかと感じています。コンテンツ認証イニシアティブを通して、安心なコンテンツを使って頂くという倫理的な部分でも信頼される会社としての立ち位置で、皆様とパートナーシップを深めていきたいと思っています。印刷業の皆様は、次のビジネスをどうやって行くかを日々、考えていらっしゃるかと認識しています。そうしたビジネスの側面からも、価値協創のパートナーとして位置付けて頂けると非常に嬉しいです。

印刷業界全体が DX など様々な新しい試みをされていく中で、ぜひ、リーダーシップを取って頂き、全印工連様の 3,700 社の方々が新しい取り組みをされる際にはアドビも一緒させて頂きたいと思っています。コンテンツのクリエイションから著作権保護、個人に最適なデジタル体験まで、アドビは幅広くご支援できます。

木村 今後の印刷業界のトレンドや技術革新について、どう展望、予測されていますか。それに対するアドビの今後のソリューション、製品開発について教えて下さい。

中井 先般開催された Adobe MAX で新しい技術や製品を発表しましたが、何よりも皆様のクリエイションの時間や正確性を担保し、より良い仕事ができるようにすることが、『Adobe Creative Cloud』や生成 AI などのソリューションの価値です。そこがアドビの技術革新や製品開発のコアな部分であることは変わりません。

とくに、かなり進化している生成 AI については、それぞれの国が持っている文化的な背景からのコンテンツの違いや、望まれるコンテンツにも寄り添えるようにしていく方向にあります。カルチャライゼーションと呼んでいて、日本のチームではアドビの開発チームに日本特有の文化を伝えています。アドビの CEO であるシャントヌ・ナラヤンは日本を含めて DTP を推進した技術者でした。日本の印刷市場を理解しており、私が会議に参加すると、「日本のお客様はどうですか」と尋ねられるんですね。日本の要望をしっかりと伝えて、皆さんに使いやすい製品を提供していくことが、日本チームとしての一つの方針です。

木村 カルチャーというお話がありましたが、日本の文化的な特性と AI について、アドビとしてどう捉えていますか。またそこに期待するところはありますか。

中井 アドビは、例えば漫画カルチャーや可愛いカルチャーは日本特有の文化だと捉えています。ここにテクノロジーが入った時に、今後どういうコンテンツが生み出されるかに注目しています。

日本では生成 AI についてポジティブに動き出した反面、倫理的な部分からオフィシャルに使えるのかどうか逡巡している状況です。クリエイターの方が安心して生成 AI を使って数多くのコンテンツを生み出し、発信するような日本ならではのクリエイションカルチャーに、アドビが貢献していきたいですし、注目しているところです。

木村 ありがとうございます。業界ではクリエイティブの領域というイメージでしたが、アドビはマーケティングや生成 AI など、私たちが DX に向かうための様々なソリューションもお持ちだということが理解できました。全印工連のアドビ特別ライセンスプログラムについても今後、生成 AI の活用ができるようになりますので、大いに期待したいと思います。これからもパートナーとして、よろしくお願い致します。



Adobe MAX Japan 2025

日本最大級のクリエイターの祭典
2025年2月13日(木) 東京ビッグサイト

チケット販売中
maxjapan.adobe.com



紙って面白い! ペーパーサミット

クリエイター × 印刷会社のコラボイベント

3年で来場者3倍超へ



今年2月15、16日の両日、大阪市の大阪産業創造館で『ペーパーサミット 2025』が開催される。“クリエイターと印刷会社の共作モノづくりフェス”と題して、紙製品の即売やワークショップなどを通じて、業界内外に“紙(印刷)”の持つ魅力や楽しさを伝えるイベントとして2022年にスタートし、今回が4回目となる。年々、規模も拡大し、初回が約700名、2回目は約1200名、3回目となる昨年は約2400名を記録し、今回は始めて入場を有料化し、昨年と同数の2400名の来場を見込んでいる。出展数も初回の15ブースから25ブース、30ブースへと増えた。ペーパーサミットを主催する大阪府印刷工業組合の高本隆彦理事長、ペーパーサミット実行委員会の矢田幸史委員長、広報委員会の田中幸恵委員長に話を聞いた。

業界外に印刷・紙の価値を

昨年2月17日、18日の二日間に渡って開催されたペーパーサミット 2024 の来場者数は、予想を大きく超えた。

「2日目の日曜日はベビーカーが入口に並ぶぐらい。お子さんを連れた多くの方々にご来場頂きました」(高本氏)

ペーパーサミットの企画は2022年、当時の浦久保康裕理事長の「対外的に大印工の活動や印刷業の魅力を発信したい」という要望から発足した渉外特別委員会の主要活動として始動した。委員長に任命された高本現理事長は、矢田氏、田中氏をはじめとする委員とともにアイデアを練った。

田中氏が代表を務める株式会社ハウユウでは、十数年前から『印刷屋さんのペーパーフリマ』という紙製品や残紙の販売、ワークショップを展開するイベントを開催しており、一般消費者やクリエイターが、モノとしての“紙”に興味を持っていることを体感していた。「田中さんが紙博って知ってますか? という話をしてくて、いや知りませんと。何でも紙好き女子という人たちが結構いて、入場料を取ってもイベントには2万人も集まるというんです。だっ

たら印刷会社が真剣にやったら面白いことできるんじゃないの? というのがペーパーサミットの企画の始まりでしたね」(高本氏)。



大阪府印刷工業組合 理事長
高本隆彦氏
(大興印刷株式会社 代表取締役)

コンセプトは“クリエイターと印刷会社の共作モノづくりフェス”。クリエイターと印刷会社が連携して開発した紙商品の発表と販売の場とするとともに、印刷会社の自社商品の販売、紙の詰め放題、Tシャツプリントなどのワークショップで、紙と印刷が楽しめる企画を盛り込んだ。

ターゲットは一般消費者。これまで大印工の事業が印刷会社の経営者を対象としていたため、まず、経営者や社員を呼び込み、回を重ねて広く一般の人たちに訴求

していく作戦を練った。集客には SNS やプレスリリース配信サイトなどを活用。結果的に2022年に開催された第1回目のペーパーサミットには、総来場者のうち4人に1人が印刷関係者以外からの来場だった。2024年の第3回目にはそれが40%にまで比率が上がっている。

クリエイターとのコラボレーションに当たってはクリエイティブ産業振興施設『クリエイティブネットワークセンター大阪 MEBIC (メビック)』が協力。懇意にしている矢田氏が動き、施設に登録しているクリエイターに参加を呼び掛けた。

「商品づくりだけでも印刷会社だけでは難しいので、クリエイターを巻き込んだ方がイベントとして成功するんじゃないかという思いがありました」(矢田氏)



ペーパーサミット実行委員会 委員長
矢田幸史氏
(有限会社サンクラール 代表取締役)

大印工ではクリエイターと印刷会社の出会いの場としてコラボマッチング説明会を設営。大印工に所属する印刷会社、MEBIC に登録するクリエイターから合わせて40名ほどが参加し、双方のプレゼンテーションと交流会で、共作をマッチングした。第1回目から3回目までに50を超える商品が生まれた。

業態変革が裏テーマ ペーパーサミットを全国に

ペーパーサミットのもう一つのコンセプトが印刷業の業態変革の促進である。

「印刷業は請け負いにとどまっていて、自分たちで価格を決められる商品、サービスを持っていないところが一つの課題だと思うんです。ペーパーサミットを通じて、商品やサービスを開発する経験をしてもらって、その開発した商品が新しい事業のチャンスになってくれればというのが、実はペーパーサミットの裏のテーマなのです」(高本理事長)。

第1回目からペーパーサミットに参加している白石封筒工業株式会社は、このイベントを契機に“Shiraishi Design”というブランドを立ち上げ、オリジナルのレター

セットやメッセージカードの販売を始めた。綾田印刷株式会社は“七宝堂”というブランドで、自社製品のPRやイベント出展情報を発信している。同社代表取締役社長の綾田慎一郎氏は、ペーパーサミット実行委員会のインタビューで、「開発段階でボツになる作品も多いし。実際に商品になるまでには時間やコストがかかります。商品が完成しても、それが売れなければただの自己満足と内輪受けで終わってしまう」と、作るだけでなく、販売までを意識している。

高本理事長はペーパーサミットの次のステップとして開発した商品の販売を見据えている。まだ構想段階だが、組合活動の一つに、ここで生まれた商品の販売サイトがあっても良いと考えている。さらには「構想ですけど、各工組でも同じような仕組みでイベントを開いて頂いて、“ペーパーサミット”というブランドを使って欲しいと思います。オールジャパンになれば、大阪で生まれた商品を北海道や福岡で売るとか、また全国で生まれた商品を大阪で売るとか、良い流れができるイベントになると思うんです。最終的には紙博や文具女子博とは違った立ち位置で、紙のことを考えるシンポジウムのようなイベントにしたいと考えています。」と展望する。

今年のペーパーサミットでは初めて500円の入場料を設定する。その代わりに来場者には500円分のチケットを渡して会場内での購入に充ててもらおう。さらにはデザインや印刷、加工に関する実践誌『デザインのひきだし』編集長の津田淳子さんをゲストとしたトークショーや、“ペーパーサミット×デザインのひきだし”のコラボ商品を多々進めており、その中には『デザインのひきだし』最新号のヤレ紙を使ったアップサイクル商品など、多数のコラボ商品の販売を企画している。

“紙”のニーズは間違いなくある。「女性のクリエイターに余り紙の話をして見たいというんですよ。トンボで裁ち落とした紙を見て彼女は“かわいい」と。私たちには今までそんな感覚ないですよ」(田中氏)。今まで見えていなかった世界が広がりつつある。ペーパーサミットは印刷業界に新しい風を吹き込もうとしている。



広報委員会 委員長
田中幸恵氏
(ホウユウ株式会社 代表取締役)



Morisawa Fonts

文字とつながる。世界がひろがる。



フォントのサブスクリプションサービス

豊富な書体ライブラリー / 複数デバイスでの利用 / 簡単なフォントインストール

morisawafonts.com



モリサワ



印刷と共に、 28年。

印刷業トータルワークフローシステム



PrintSapiensは導入シェア、JDF連携実績、販売実績期間ともに国内1位の印刷業基幹業務システムです。

JDF対応MIS

検索

J Spirits 株式会社J SPIRITS TEL:03-6206-0681

東京都千代田区神田町二丁目2番地7 パークサイド1ビル1F
HP▶<https://jspirits.co.jp> E-Mail▶info@jspirits.co.jp

タビメモリ
御集印帳 3,600円(税別)

ロイヤルブルー
ブライトオレンジ
ファインゴールド

白いファイル
PF-II 3面のタイトル紙
A4タイプ(縦型) 差し替え自由

差し替え自由

品番 PF1120 PF1130 PF1140 PF1150 PF1160 PF1180
標準価格 1,800円 1,810円 1,890円 1,950円 2,010円 2,140円

箔押名入れクリアホルダー
安と早い
17.8円
(5000枚製作)

自社工場だから
高品質
短納期
最短3日間

数量	単価	価格	納期
500	36.8円	18,400円	3日
1,000	23.8円	23,800円	
3,000	19.8円	59,400円	
5,000	17.8円	89,000円	4日

(初回のみ版代3,400円)(税別)

※クリアーの価格です。色物は@5UP。箔押の版サイズは50cm²以内となっております。デザインは完全データ(イラストレータ8.0~CS6)にてご支給下さい。

株式会社 **プリントバック** TEL03-3821-2151
〒110-0008 東京都台東区池之端2-9-3 FAX03-5842-1405
E-mail infomail@printbag.co.jp URL <https://www.printbag.co.jp>

●ファイル・バインダー ●証書入れ ●メニュー ●プラスチックカード ●ホットスタンプ(箔押) ●クリアホルダー
●機関紙ファイル ●社内報ファイル ●手帳 ●表紙・製本(ペーパーリング・エコジック・ツイソリング・セルリング・スパイラルリング)
●W箔押 《オリジナル品》ビットインフリーファイル1ダブル・II、スーパークリスタルカレンダー、タビメモリ



DX推進委員会

委員長 富澤 隆久

DX-PLATの 本格稼働目指す

プラットフォームで 生産協調体制を実現

今期から DX 推進委員会の委員長を仰せつかりました東京都の富澤隆久です。よろしくお願い致します。

今年度より、「DX 推進プロジェクトチーム」は「DX推進委員会」として再始動しました。当委員会は印刷DX推進システム「DX-PLAT」のトライアル検証と、MIS「BRAIN」、 「SP-MULTI」の導入促進を進めています。「DX-PLAT」は印刷会社同士をプラットフォームで繋ぎ、印刷業界の生産協調を実現する仕組みです。

昨今の印刷業界は供給過多状態で、印刷物の受注単価が低下し、設備稼働率が悪化しています。そうした状況でも、一部の企業は製造業からデザイン・企画に特化した業態へとシフトし、新しい需要を生み出しています。印刷産業全体を成長させるには、お互いの得意分野を掛け合わせ付加価値を高めることが必要です。優れた制作のスキルを持つ会社はサービス特化型に転換することで新しいビジネスの展開が期待できます。高い生産能力を持つ企業はそうした企業から印刷を受注することで安定して仕事を得ます。このように各社が強みを発揮して、ジョブシェアリングを実現することが生産協調です。

「DX-PLAT」は、数社の企業が集まってグループを作り、そのグループ内で受発注を行うことで生産協調体制を実現します。このプラットフォームは企業間でオーダーデータのやりとりを行う「JSP (Job Sharing Platform)」と、グループ内の設備の状況を共有する生産管理システム「JWS (Job Workflow System)」で構成されます。この

2つの機能で、発注側は自社工場の様に納期・価格・進捗を把握できます。受注側は各種事務作業を削減すると共に、設備の稼働率を向上することで、売上拡大に繋がります。

前年度は協力企業を募り、DX-PLAT グループを組織し、トライアル検証を実施しました。今年度は各グループとのヒアリングを重ね、DX-PLAT の本格稼働に向けた問題点の分析と改善を推進していきます。また、セミナーを通じてDX-PLAT の情報を発信していきます。MIS 「BRAIN」、 「SP-MULTI」の導入に向けた周知活動も推進していきます。

当委員会の事業は組合員の皆様のご支援の下、推進しています。DX-PLAT グループの皆様には自社の為ではなく業界の活性化の為にトライアル検証に参加して頂きました。また、各都道府県工組へ活動の説明に伺うと、組合員の皆様が DX-PLAT の説明、DX の必要性に耳を傾けてくださいます。皆様のご理解とご協力に、感謝しかありません。今後も当委員会の活動にご理解とご協力をお願い致します。

DX-PLAT運用グループヒアリング実施状況

グループ名	代表企業	代表者名	参加企業	グループ種別	ヒアリング日程
神奈川DXグループ	朝ココラボ	江森克治	3社 (組み直し中)	地域連携型	
1-2Cコンソーシアム	弘和印刷機	瀬田章弘	4社	同設備連携型	9月3日(火) 於：朝中本店
あけぼの印刷団地	朝DI Palette	逸山 亮	3社	産業界内連携	
ひろしまDX	朝中本店	中本俊之	4社	地域連携型 発注者生産者連携	11月28日(木) 於：朝中本店
DX 四国	朝明朝社	権名洋隆治	4社	地域連携型 発注者生産者連携	8月21日(水) 於：朝明朝社
あいちDX	知多印刷機	酒井良輔	7社	地域連携型 発注者生産者連携	
osakaS000001	作通印刷機	作通孝行	2社	発注者生産者連携	9月26日(木) 於：作通印刷機
DMのプロ集団	朝岐卓文芸社	飯尾 賢	4社	全国同業者連携	9月9日(月) 於：オンライン
ウエマツグループ	朝ウエマツ	福田浩志	4社	グループ内連携 システム検証	
	清水印刷機	清水雅司	2社	地域連携型	調整中 於：清水印刷機

ホリゾンのSmart Factory

スモールスタートから全体最適化まで、ホリゾンが提案・サポートいたします。

製本関連機器メーカーであるホリゾンは、2019年より協働ロボットやAGV・AMR（無人搬送車）を取り入れた様々なシステムを展開してきました。後加工工程の作業自動化のみならず、包装資材の自動梱包、他社製プリンターからの用紙搬送の自動化など、メーカー間の垣根を超えた開発実績もございます。また、ホリゾン自社工場の生産ラインのSmart Factory化も積極的に行っており、AGV・AMRを利用した組み立て部品の自動調達システムを構築。作業員の負担軽減に貢献しています。これらのノウハウを生かして、ハードウェアの導入からシステム構築まで、お客様のご要望に応じたフレキシブルな提案でSmart Factory化を実現します。

スモールスタートから工場全体の最適化まで、ホリゾンが提案・サポートさせていただきます。まずはお気軽にご相談ください。

現場のお困りごとはありませんか？

ICE LiNK が不透明な生産現場を **見える化!**

- いつ印刷が上がってくるのかわからない
- ジョブの多品種小ロット化でセット替えが大変
- 誰が何の作業をしているかわかりにくい
- 採算性がわからない
- 設備の稼働率がわかりにくい



印刷・製本工程の「見える化」を実現

ジョブの進捗状況や設備稼働率が一目でわかるダッシュボード機能で、不透明な生産現場を iCE LiNK で可視化。ワークフローの最適化でコスト削減と生産性の向上を実現します。3つのサブスクリプションプランで必要な機能だけ利用できるので、初期費用を抑えつつ生産現場最適化へ取り組むことが可能です。



長時間に及ぶ搬送作業は **無人搬送車** で **自動化!**

- 運ぶだけの作業で人手がとられている
- 重量物を運べる人手が少ない
- 工程間搬送が多く、本来の業務に集中できない
- 離れた建屋への荷物運搬に時間がかかる
- 建屋内が狭い / モノが多くて運搬しにくい



運搬作業の自動化で生産効率アップ

1日に何度も行われる搬送作業を無人搬送車に置き換えることで、生産性向上や作業員の負担軽減につながります。またホリゾン独自の WCS (倉庫管理システム) を導入することで、既存の生産管理システムや iCE LiNK (ワークフローシステム) と無人搬送車を連携させることが可能です。



肉体負荷の高い作業は **協働ロボット** で **自動化!**

- 荷物の積み下ろし作業に人手が取られる
- ヒューマンエラーで生産ラインを止めたくない
- 生産ラインの至る所で、人が1日中つきっきり
- 単純作業や重労働を社員にさせたくない
- 労働人口減少によって働き手が不足している



肉体負荷の高い反復作業を自動化

「積む」「詰める」「投入する」など、人の手で行ってきた作業を協働ロボットで自動化。産業用ロボットと違い、柵で囲む必要が無く、設置面積も省スペースなので既存の生産ラインにも組み込みやすいのが特徴です。アームに取り付ける手はカスタマイズできるので様々なシーンでご活用いただけます。



MORE AT HORIZON.CO.JP



東京都印刷工業組合は今年創立75周年を迎えました。前身となる「東京都活版印刷業組合」は1890年に設立しましたので、東京都の印刷業組合としては134年の歴史を持ちます。これまで、「連帯、共済、対外窓口」という工業組合の機能のもと、一社では解決できない共通の経営課題に、組合員で力を合わせることで課題解決を図っています。

当工組は活動の一つとして、組合員の課題を解決するDXソリューションを提供しています。2022年10月、印刷業向けMISクラウドサービス「BRAIN」を開発しました。今年2月には組合活動におけるさらなる利便性向上と価値創造のため、組合員向けの新しい情報プラットフォーム「CONNECT（コネクト）」の提供を開始しました。

■ 印刷業向けMISクラウドサービス「BRAIN」

BRAINは印刷業に特化したMIS（基幹業務システム）です。必要な機能に絞ったコンパクトな内容で開発され、汎用性が高く、クラウドサービスのためサーバー代などのコストが不要です。BRAINを導入することで、受注から発注・仕入れ、売上までの「販売・製造業務」、損益管理、請求管理、買掛・売掛管理などの「管理業務」のデジタル化を実現し、アナログな業務管理からの脱却が可能となります。新機能としてインボイス制度への対応、見積もりから請求までをシームレスに管理できる見積り機能を実装しました。これにより、社内単価、顧客別単価の一元化が実現できます。



BRAINのシステム概要

■ 情報プラットフォーム「CONNECT」

組合員向けの専用ホームページ「CONNECT」は自社企業のサービス品目、設備、実績等企業情報を登録することで、組合員間に自社の強みをアピールし、ビジネス創出につなげることができる情報プラットフォームとして開発されました。企業情報が検索できるだけでなく、メッセージ機能やグループ作成機能で組合員間のコンタクト

を図れるため、組合員間の連携を強化します。

また、自社では解決できない案件を組合員に向けて相談できる「組合員案件相談」機能や、特定の話題についてオープンに情報交換できる「ディスカッション」機能など、組合活動のさらなる活発化を促す機能を備えています。

受信メッセージ	企業間や任意のグループでメッセージのやり取りができます。
イベント	イベントの案内確認、参加申込、決済までをワンストップで行えます。
企業検索	さまざまな条件を指定して、組合員企業を検索することができます。
組合員案件相談	組合員に向けて、自社で解決できない案件を相談できます。気軽に投稿してみましょう。
グループ	委員会、支部、趣味の会など、任意でグループを作成することができます。
ディスカッション	Q&Aや特定の話題について、組合員とオープンに情報交換ができる機能です。
アンケート	事務局や支部からのアンケートが届きます。短時間で手軽に回答することができます。
物販	印刷手帳など、東印工組の物販がオンライン上で購入できます。

CONNECTのシステム概要

東京都印刷工業組合 事務局

〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館 4階
 TEL 03-3552-4021 / FAX 03-3553-2653
 URL <https://www.tokyo-printing.or.jp/>



全国協議会、大阪万博、そして伝説へ…

新年、明けましておめでとうございます。本年も皆様にとって素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

今期、全青協四国地区担当副議長を仰せつかっております、高知県のあらゆる印刷共和印刷(株)の酒井大輔と申します。長い社名ですが、「共和印刷」と覚えていただくと嬉しいです。

さて皆さま、昨年開催されましたブロック協議会にはご参加いただけましたでしょうか?今これを書いている時点では数日後に東京ブロック協議会の開催が迫っております。これまで8ブロックで開催し、毎回アップデートを重ねてきた集大成として今回は過去最高の内容、盛り上がりを見せたことと思います。そしてこれが皆さまのお手元に届いている頃、我々は2月の全国協議会、そして4月の大阪・関西万博の TEAM EXPO パビリオンでの発表に向けて走り出しています。果たしてどんなコンテンツになるのか今の私にはまだわかりませんが、どうか今年も全青協の活動にご期待いただき、一緒に走っていただければと思います。

ところで、年明け早々にこんな話をすると鬼が抱腹絶倒しそうで恐縮ですが、来年の話をさせてください。中部ブロック協議会の懇親会でも話しましたが、ブロック協議会や全国協議会に参加してみて「面白い!」と思った方はぜひ2026-27期の副議長に手を上げてみてほしいです。「全国に友達や仲間を作りたい」「協力会社を探したい」「自身・自社を成長させたい」etc...理由はなんだっていいと思い

ます。私は頭の回転が遅くて色んなことに乗り遅れてしまうたちなので、強制的に前へ進まざるを得ない状況に自分を追い込もうと思って手を挙げました。全国の印刷人を引っ張っていかなきゃいけない議長や議長指名副議長にとっては迷惑な話でしょうけれど、全青協は優秀な人ばかりですから私みたいなぼんくらが一人くらい混ざってたってどうにかなります(笑)。副議長の選出方法はブロックそれぞれだと思いますが、機会が訪れた時に乗り遅れぬよう、自分に機会が巡ってくるよう積極的に声をあげて挑戦してください。言うだけならタダですから、今年の抱負にちょこっと書き加えていただければ幸いです。

というわけでちょうど指定の文字数までたどり着いたのでここで締めとさせていただきます。ここまで読んでくださってありがとうございました!読んでくださった勢いでそのまま↓のカポッドキャストも聴いていただけると嬉しいです。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



雇用保険制度 現在の制度と今後の主な見直し内容について (3)

株式会社 GIMS 特定社会保険労務士 小倉 絵里

<https://gims-consulting.com/>

人生100年時代を迎え、意欲のある高齢者が年齢にかかわらず働き続けることのできる生涯現役社会の構築が必要とされています。企業における希望者全員の65歳までの雇用確保の仕組みが整備される中、高齢者雇用安定法により企業における安定した雇用・就業の確保、中高年齢者等の再就職支援及び地域における多様な雇用・就業機会の確保を図ることが掲げられました。雇用保険制度の今後の見直しの内容について、雇用継続給付のひとつ高齢雇用継続給付の給付率変更を確認します。

〔雇用継続給付(高齢雇用継続給付)〕

施行期日：2025(令和7)年4月1日以降対象者より改正雇用保険制度の高齢雇用継続給付には、①高齢雇用継続基本給付金と②高齢再就職給付金がありますが各々次の者に支給されます。

①高齢雇用継続基本給付金

被保険者であった期間が5年以上ある60歳以上65歳未満の労働者であって、60歳以後の各月に支払われる賃金額が、原則として60歳時点の賃金額の75%未満となった状態で雇用を継続する60歳以上65歳未満の一定の高年齢者

②高齢再就職給付金

離職した場合に支給されるいわゆる失業給付である「基本手当」を受給した者が、60歳以後に再就職をし、再就職後の賃金の月額が、「基本手当」の基準となった賃金日額を30倍した額の75%未満となった場合で、次の要件を満たす60歳以上65歳未満の一定の高年齢者

- a: 「基本手当」についての被保険者であった期間が5年以上あること
 - b: 再就職した日の前日における「基本手当」の支給残日数が100日以上あること
 - c: 安定した職業に就くことにより被保険者となったこと
- ※高齢再就職給付金は、「基本手当」の支給残日数200日以上は2年間、100日以上は1年間

〔給付率と給付額〕※図1

2025(令和7)年4月以降、改正後の各月に支払われた賃金の低下率に応じて、支給率に従い給付されます。

※支給対象月に支払いを受けた賃金の額が支給限度額(376,750円)以上であるときには、高齢雇用継続給付は支給されません

※支給対象月に支払いを受けた賃金額と高齢雇用継続給付として算定された額の合計が支給限度額を超えるときは、376,750円－(支給対象月に支払われた賃金額)が支

給額となります

※高齢雇用継続給付として算定された額が2,295円を超えない場合は、支給されません

〔図1〕

高齢雇用継続給付とは

60歳到達等時点に比べて賃金が75%未満に低下した状態で働き続ける60歳以上65歳未満の一定の一般被保険者の方に支給される給付です。

令和7年4月1日以降支給率が変わります。

令和7年4月1日以降の支給率

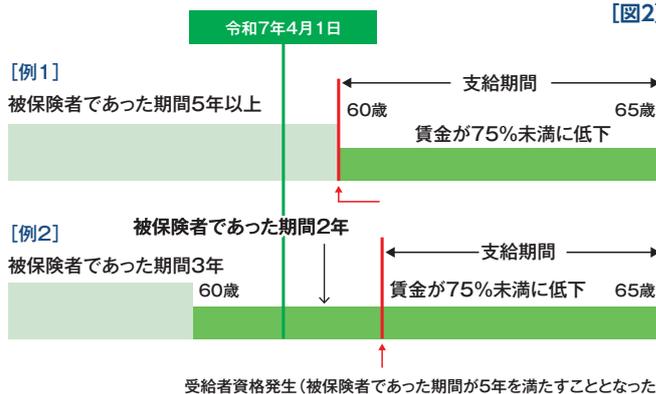
各月に支払われた賃金の低下率	賃金に上乘せられる支給率
64%以下(61%以下)	各月に支払われた賃金額の10%(15%)
64%超75%未満(61%超75%未満)	各月に支払われた賃金額の10%(15%)から0%の間で、賃金の低下率に応じ、賃金と給付額の合計が75%を超えない範囲で設定される率
75%以上	不支給

※()内は令和7年3月31日以前の低下率・支給率です。
※支給限度額・最低限度額の取り扱いに変更はありません。

《対象者》※図2

支給対象者は令和7年4月1日以降に60歳に達した日(その日時点で被保険者であった期間が5年以上ない方は、その期間が5年を満たすこととなった日)を迎えた方が対象となります。

〔図2〕



※令和7年3月31日以前に60歳に達した日(その時点で被保険者であった期間が5年を満たすこととなった日)を迎えた方は現行の支給率から変更はありません

参考：令和6年1月12日 職業安定分科会雇用保険部会(第193回)参考資料
令和6年6月24日 高齢者雇用対策の概要 参考資料 厚生労働省・職業安定局・高齢者雇用対策課
令和7年4月1日から高齢雇用継続給付の支給率を変更します 厚生労働省・労働局・ハローワーク



令和6年秋の叙勲・褒章受章者紹介

令和6年度秋の叙勲・褒章受章者が発表され、全印工連関係では富山工組の楠 行博氏が旭日双光章を愛知工組の鳥原久資氏が藍綬褒章を、それぞれ受章されました。

《旭日双光章》



楠 行博 元 全日本印刷工業組合連合会理事
元 富山県印刷工業組合理事長
株式会社タイヨーパッケージ 会長
功績 中小企業振興功労

《藍綬褒章》



鳥原 久資 前 全日本印刷工業組合連合会副会長
前 愛知県印刷工業組合理事長
株式会社マルワ 代表取締役社長
功績 中小企業振興功績

全国の印刷関連イベントのお知らせ

今後開催予定の全国の印刷関連イベントの開催日、イベント名、開催場所をお知らせいたします。
多くの組合員の皆様のご参加をお待ちしております。

開催日	イベント名	開催場所
2025 1/8(水)	2025年新年交歓会(日印産連)	The Okura Tokyo(東京都港区)
2/8(土)	全青協 第38回全国協議会	グランキューブ大阪(大阪府大阪市)
2/15(土)~2/16(日)	ペーパーサミット 2025	大阪産業創造館(大阪府大阪市)
2/19(水)~2/21(金)	page2025	サンシャインシティ(東京都豊島区)
3/13(木)~3/14(金)	JP2025・印刷 DX 展	インテックス大阪(大阪府大阪市)
5/30(金)~5/31(土)	2025九州印刷情報産業展	福岡国際センター(福岡県福岡市)

「令和6年度印刷業経営動向実態調査」 実施のお知らせ

全印工連では、中小印刷業の経営動態を的確に把握し、経営戦略の決定に資することを目的として、例年全組合員を対象に「印刷業経営動向実態調査」を実施しています。本調査はインターネット上の調査となり、当連合会でメールアドレスを把握している組合員の方々には、11月下旬より順次メールにて調査のご案内をさせていただきます。メールアドレスをまだご登録いただいていない組合員の皆さまは、下記までご連絡いただきますようお願い申し上げます。なお、令和5年度の調査結果につきましては、全印工連 HP にて公開しております。(http://www.aj-pia.or.jp/)

【お問合せ】 全日本印刷工業組合連合会 総務課:飯山 Tel: 03-3552-4571 Fax: 03-3552-7727
E-mail: iiyama@aj-pia.or.jp



2025年

あけまして
おめでとうございます

(順不同)

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社

代表取締役社長

山田 周一郎

〒106-0031 東京都港区西麻布二丁目26番地30号
富士フイルム西麻布ビル TEL:03(6419)0300
[ホームページ] <https://www.fujifilm.com/figs/ja>

 **大塚商会**



POD 推進部

〒102-8573 東京都千代田区飯田橋 2-18-4 10F
TEL 03-3514-7625

全印工連常務理事
岐阜工組理事長

大 洞 正 和

大洞印刷株式会社 代表取締役会長
〒501-0466 岐阜県本巣市下真桑 290-1
TEL 058-320-5123
<https://www.obora-pri.co.jp/>

全印工連常務理事 / 北海道工組理事長

 **株式会社 正文舎**

代表取締役

岸 昌 洋

〒003-0802
北海道札幌市白石区菊水2条1丁目4-27
TEL.011-811-7151 FAX.011-813-2581
<https://www.shoyubunsha.co.jp/>



全印工連理事
新潟工組理事長

 **DI Palette**

遠 山 亮

株式会社 DI Palette 代表取締役社長
〒950-8724 新潟県新潟市中央区和合町 2-4-18
TEL 025-382-7400

フェアコミュニケーションで
サステナブルな未来へ



株式会社ココラボ
代表取締役 江森克治
<https://cocollabo.jp>



全印工連副会長
大阪工組理事長



大興印刷株式会社 代表取締役

高 本 隆 彦

〒552-0007
大阪市港区弁天1-2-1 大阪ペイタワール オフィス16階
TEL : 06.6577.2205 / FAX : 06.6577.2207
www.daiko-printing.co.jp

全印工連理事
京都工組理事長

為 國 光 俊

株式会社ティ・プラス 代表取締役
〒604-8457 京都府京都市中京区西ノ京馬代町 6-16
TEL 0705-462-7889
<https://tplus-group.co.jp>

全印工連常務理事
宮城工組理事長
東北地区印刷協議会会長

今 野 均

株式会社ユーメディア 代表取締役
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 4-12
TEL 022-288-6015
<https://www.u-media.jp>

全印工連理事
青森工組理事長

澤 田 義 治

不二印刷工業株式会社 代表取締役
〒030-0801 青森県青森市新町 2-8-26
県火災あおり 4階
TEL 017-735-4867

全印工連常務理事
東京工組常務理事

関 野 里 美

セントラル印刷株式会社 代表取締役
〒112-0013 東京都文京区音羽 1-20-14
MBS 音羽ビル 2F
TEL 03-5981-8911
<https://www.central-p.net/>

兵庫工組青楠会副会長
一般社団法人神戸青年会議所常任理事

武 部 俊

大和出版印刷株式会社 代表取締役
〒658-0031 兵庫県神戸市東灘区向洋町東 2-7-2
TEL 078-857-2355
<https://www.d-wa.co.jp/>





全印工連顧問
東京工組顧問

水上光啓

MIC 株式会社 代表取締役会長
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 5-14-3
TEL 03-5354-3340

有賀賢一

株式会社 SCREEN GP ジャパン 代表取締役社長
〒135-0044 東京都江東区越中島 1-1-1
ヤマタネ深川1号館
TEL 03-5621-8266

全印工連常務理事
東京工組常務理事

小島武也

株式会社武揚堂 代表取締役
〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 1-3-25
TEL 03-3714-7431
<https://www.buyodo.co.jp>

豊富なテンプレートで文章作成
文唱AI <https://lp.ai.edo.city/>

 **文唱堂印刷株式会社**
代表取締役社長
橋本唱市

〒101-0025 東京都千代田市神田佐久間町3-37
TEL 03-3851-0111

共に創る
印刷業の未来を

 簡単アクセス!

リコージャパン株式会社
〒104-6033 中央区晴海1-8-10

インサブのこれからをかんがえる
Print Compass
Powered by 

全印工連常務理事
広島工組理事長

中本俊之

株式会社中本本店 代表取締役
〒730-0004 広島県広島市中区東白島町 13-15
TEL 082-221-9181

全印工連常務理事
山形工組理事長

大風亨

株式会社大風印刷 代表取締役
〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘 1-2-6
TEL 023-689-1111

 **株式会社瞬報社**
瞬報社写真印刷株式会社から
「株式会社 瞬報社」へ社名変更いたしました。

代表取締役社長
山口県印刷工業組合 理事長
藤田良郎
Yoshiro Fujita

〒752-0927 山口県下関市長府扇町9番50号
TEL: 083-249-1100 (代) <https://www.shunpou.co.jp/>

謹賀新年

 **静岡県印刷工業組合**

理事長
岩井泰次郎

日本レーベル印刷株式会社 代表取締役社長
〒422-8666 静岡市駿河区国吉田三丁目1番1号
TEL (054) 262-1111

全印工連常務理事
東京工組副理事長

富澤隆久

富沢印刷株式会社 代表取締役社長
〒116-0003 東京都荒川区南千住 3-4-4
TEL 03-5615-1221
<https://www.10330.co.jp>

**「デザイン」の力で色んな
困った を解決します!**



UMO
代表 齊藤 理

各種印刷物・Web デザイン
ロゴデザイン・ブランディング
サイン・空間デザイン
写真撮影、動画編集、取材 など
企画会議からお呼びください。
<https://www.umo5.com>

企業と人のより良い関係づくり
に貢献する会社です

 **青樹印刷株式会社**

代表取締役 青木 允

東京都中央区日本橋茅場町 2-14-5
<https://aoki-prt.co.jp/>



Giving Shape to Ideas

印刷ビジネスの課題を共に解決



受注拡大

デジタルを活用した受注体制の強化で顧客拡大を支援

印刷物への多様な付加価値創造で他社との差別化を支援



生産性向上

自動化やスキルレスでの作業性で効率化&工数削減

生産プロセスのスリム化で生産性&利益率向上



環境配慮

SDGsや環境課題解決への取り組み支援

働き方改革など事業継続に必要な社内環境構築支援

多様な視点で
印刷の未来をデザインする
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

コニカミルタ ジャパン株式会社

つながるプリントラボ

検索

プロフェッショナルプリント事業部 〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 TEL. 03-6311-9061

印刷業の未来を 共に創る



インサツのこれからをかんがえる

Print Compass

Powered by RICOH

プリントコンパス

検索

リコージャパン株式会社

〒104-6033 中央区晴海1-8-10 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX33F

Horizon Change the focus

ホリゾン・ジャパン株式会社

www.horizon.co.jp

使いやすく進化した無線綴じ製本機

無線綴じ機 ICE BINDER BQ-300

新世代15インチパネルHorizonXUI(ホリゾンクロスユーアイ) 初搭載。
製本のノウハウと自動化技術を融合し、オペレーターの実験や能力に頼ることなく簡単に製本作業を行うことができます。



ICE BINDER

SCREEN

印刷市場に革新をもたらす。



詳しくはこちら

フルカラーバリアブルプリンティングシステム

Truepress JET 560HDX



株式会社 SCREEN GP ジャパン 本社/03(5621)8266(代)
〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1 ヤマトネ深川1号館

株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ
www.screen.co.jp/ga



RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが
SDGs達成をアシスト

印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

RMGT リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
〒726-0002 広島県府中市鞆飼町 800-2 TEL 0847-40-1600

RMGT-CSPIの詳細については、こちらをご覧ください。
<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/cspi/>



お客さまの

「踏み出す力」になる。

価値ある情報、豊富な知見、確かな技術で。

さまざまな現場課題、経営課題を、どう解決するか。
これから進むべき方向性を、どう見極めるか。
その答えは、一つとは限りません。だからこそ、
信頼できるパートナーと共に、ベストな道を選び
たいもの。FFGSは、広範なネットワークを
活かした実践的な情報と、一社一社の戦略や
課題に合った効果的なソリューションで、
お客さまの「最良の選択」をサポートします。
そして、長年培ってきた知見と技術力を
活かし、変革の一步一步をしっかりと支え、
新たな未来へ向け、共に前進していきます。



一緒に答えを導き出す会社へ。

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社



この印刷物は、CSR
に取り組む印刷会社が
製作した印刷物です。

P-00082



GREEN PRINTING JFPI
P-B10026

この印刷製品は、環境に配慮した
素材と工場で製造されています。